

(1)

二十一年三月二十日 委員会

三十四 原子力委員会  
基礎物理学研究所

原子力開発利用基本計画策定要領(草案)

三一、三二、三三、三三 原子力局

一、長期計画の策定が現在の段階では困難であること

またこれ以前に遂行して、先づ、問題点を整理し、その対策を  
見通し、早急に出発する必要があるとする。

二、原子力行政の基本的方針として、自給性と国際協力

の二点を掲げ、濃縮ウラン対策ウラン、重水、軽水

の三つを、核燃料、原子力開発利用資料の欠乏

三、原子力利用の進めし、可能性の検証

1. 社会反応

2. 増産計画 1. 核の危険性、核燃料、核燃料、核燃料

3. 原子力利用

(2)

田

電力に關する問題

Nuclear Station, by Tokyo, Genere Company

コストの問題 (Cost of Power and Value of Plutonium from Early)

a. 燃料費 原子炉の耐用年数 1ヶ月前に決まる

b. 燃料の燃焼率の処理費

c. 発電所の建設費 原子炉の出力

d. 燃料費 (処理を必要とするものは削減できる)

e. 原子力

f. 燃料費

g. 燃料の燃焼率および利用率

h. 燃料費

i. 燃料費

j. 燃料の燃焼率の燃焼

k. 燃料の燃焼率の燃焼

九三三 (燃料の燃焼率の燃焼) (電力増産コスト 二四五十円)

川田(1954)

基礎物理学研究所

(3)

天然のシリコン・ゲルマニウム・ポルトシウム  
 不足  
 五、技術・材料・機械等の不足、充足の見込  
 六、特殊な用途の需要、不足、充足  
 機械

基礎物理学研究所